

ヒロイズムの凋落:ピュルケリの場合

小 林 卓

§ 1 政治的状況

テオドズ皇帝とその姉ピュルケリの共同支配のもとにあったビザンツ帝国。実質的な権力は姉ピュルケリが掌握しており、彼女は次の皇帝に愛するレオンをつけようとたくらんで、レオンの政治的地位の向上に意を注いでいた。ところが、思いがけなくテオドズが早世する。弟の早すぎる死に、ピュルケリの計画は頓挫しそうになる。

ピュルケリは元老院によって女帝と指名されるが、女性なるが故に単独で支配することはできず、皇帝を選定しなければならないが、それは同時に彼女の配偶者の選択を意味する。型どおりに元老院が開かれる。元老院では、数々の候補者が多数派工作をして争うが、コンセンサスを見出すことはできない。畏れ多くも後の夫君を決める訳にはいかないと言う理由で、元老院は皇帝の指名を放棄し、その選定はピュルケリ自身に委ねられる。ピュルケリは元老院がレオンを推輓することを密かに願っていたのだが、その一縷の望みは断たれた。とはいえ、ピュルケリは、自らの cœur の欲するところに従いレオンを選ぶ訳にもいかない。若年のレオンでは元老院から否認される虞れがあるからであり、そうなれば彼女の gloire も政治的地位も地に堕ちる。ここにコルネイユ劇に常套の栄光と心情との仮借ない相克が出現し、ヒロインを追い詰める。言うまでもなく、コルネイユの劇的世界では心情よりもヒロイックな価値が優先するのであり、コルネイユのヒーロー達は心情の犠牲によってこの葛藤を超越し gloire に到達する。しかし、この簡明なヒロイズムの原理も後期の作品では自明さを失って行ったのである。ヒロイックな選択の前に躊躇したり、もっと悪いことにヒロイズムそのものの価値が薄れて行った。ピュルケリは、その様にヒロイズムの価値観が自明な堅固さを失ってしまった世界に現れ、ヒロイズムに固執し貫徹しようとして果たせなかったヒーローだったと言えよう。

こういう場合よくありがちなように、有力な候補者は退けられて中立的な立場にあった無色のマールシャンが皇帝に選ばれることになる。政治的には、いささか策略が勝っているとしても無難な決着であった。これで当座の政治的危機は回避されたのである。

ピュルケリが背負った最大の課題、順当なる権力の継承によって帝国の維持を達成することは、成功を収め、ビザンツ帝国は何事もなかったかのように崩壊を免れ、滞ることなく維持されていくかの様に終了する。しかし、この老大国の壮麗な秩序の維持は、ヒロイズムによってではなく、策略と妥協の政治的決着によってなされたのである。我々は、ピュルケリというヒロインに焦点を集め、彼女が誇示するコルネイユ的なヒロイズムの実質を検証し、それがいかに変質し凋落してしまった

かを見てみよう。ヒロイズムの凋落は後期コルネユ劇の大きな特徴であるのだが、その典型的な在り方をピュルケリに見ることができるであろう。

§ 2 ピュルケリのヒロイズム

ピュルケリの持つヒロイックな感覚はコルネユ劇のヒーロー達と同じ様に、特別の出生と身分から生じる。それは運命的なものであり、人間の選択できるものではない。それ故に、人間はそれを異議なく受容せざるを得ない。特にヒーローならば彼に課された運命がどのように重荷であろうと、その前に逡巡することはないはずである。コルネユのヒロイズムの特徴は、その運命が共同体の維持発展に関るという政治的なものであることに存する。

..... mais une âme bien née
Ne confond pas toujours l'amour et l'hyménée:
L'amour entre deux cœurs ne veut que les unir,
L'hyménée a de plus leur gloire à soutenir,
..... pour les plus belles vies
L'orgueil de la naissance a bien des tyrannies.
Souvent les beaux désirs n'y servent qu'à gêner,
Ce qu'on se doit combat ce qu'on se veut donner,
L'amour gémit en vain sous ce devoir sévère... 77-85

Souffre que je t'explique en faveur de sa flamme
La tendresse du cœur après le grandeur d'âme, 845-6

ネルソンが指摘するように、公式にはピュルケリの中ではヒロイズムあるいは国家的価値は明確に愛に優先する⁽⁴⁾。次の言葉は、簡潔にピュルケリの態度、そしてコルネユ的ヒロイズムの価値観を表明していよう。ヒーロー達はこのような価値観に従い、逃れられない運命に敢然と立ち向かい、遂には運命そのものを超越するのである。

Je suis impératrice, et j'étais Pulchérie. 754
De ce trône, ennemi de mes plus doux souhaits,
Je regarde l'amour comme un de mes sujets: 755-56

Je suis impératrice, et j'étais Pulchérie⁽⁴⁾ という時制の相違を巧みに活かした箴言流の語句は彼女のヒロイックな信念の揺るぎない確固さを垣間見せ、オラースの *Albe vous a nommé, je ne vous connais plus.*

Horace 502 という台詞を思い起こさせるものである。さらに次のピュルケリの生命より gloire の方が価値があるという台詞は、真正なるコルネイユのヒーローのものであると言ってよい。

S'il n'y faut que mon sang, je veux bien vous en croire,
Mais c'est trop hasarder qu'y hasarder ma gloire, 961 - 962

それに対比して、レオンにはそのようなヒロイックな価値観への執心は見られない。二人の愛のためには、ピュルケリに皇位を離れるよう示唆するくらいなのである。

Séparez-vous du rang, Madame, et 138

ピュルケリがレオンに向かって、彼と結婚できないことを決定的に言ったときに、

Il faut nommer un maître, et choisir un époux,
C'est la loi qu'on m'impose, ou plutôt c'est la peine
Qu'on attache aux douceurs de me voir souveraine.
Je sais que le sénat, d'une commune voix,
Me laisse avec respect la liberté du choix,
Mais il attend de moi celui du plus grand homme
Qui respire aujourd'hui dans l'une et l'autre Rome: 928 - 34

レオンは彼女のあまりの高い gloire の感覚に驚きを禁じ得なかったのである。

J'avais cru votre gloire un peu moins délicate, 942

ピュルケリは愛するレオンとさえ、ヒロイズムにおいて連帯することができなかったのであり、『ピュルケリ』においてヒロイズムが、どれほど影の薄れたものになっていたか伺えよう。

§ 3 ピュルケリの愛について

このようなピュルケリのヒロイズムは、愛にまでも影を落とす。彼女はレオンを愛していることを隠さないが、その愛は決して官能に導かれるようなものではない。

Je vous aime, et non point de cette folle ardeur
Que les yeux éblouis font maîtresse du cœur,

Non d'un amour conçu par les sens en tumulte,
A qui l'âme applaudit sans qu'elle se consulte,
Et qui ne concevant que d'aveugles désirs,
Languit dans les faveurs, et meurt dans les plaisirs. 3-8

ピュルケリのレオンへの愛は、高邁にして堅固、徳、理性、光栄に裏打ちされた愛なのである。

Ma passion pour vous, généreuse et solide,
A la vertu pour âme, et la raison pour guide,
La gloire pour objet, et 9-11

このピュルケリの言葉、典型的なコルネリエンヌの表現・態度であるが、これを率直に受け取るならば、ナダルの言う官能を越えたより高次の愛、l'amour héroïqueの現前を見ることができるはずである。ナダルから引用しよう「感覚の不意打ちから生まれた愛は弱点と考えられているので、偉大な魂からは常に排除された。心と精神を分離するこうした見方は、愛を単なる快楽としか看做すことに他ならず、それ故に非劇の舞台にふさわしくないものとなったのである。但し、意志が愛に屈伏することなく、あるいは過酷な運命と愛が相克したり、また、栄光が愛を規制する場合は別である。」⁽³⁾ピュルケリの場合、運命の課す過酷な運命と愛が相克し、またヒロイズムが愛の抑制を要求しているので、愛においてヒロイズムの発揮の可能性はないわけではない。彼女自身、自分の愛は gloire を目的としていると言っている。

ピュルケリとレオンの愛の成就の障碍となっているものは、レオンを皇帝に就けることはできないという政治的なものである。レオンがいかに勇氣に満ちているとしても、彼の若年は政治的に致命的な弱点なのである。

Pour surprenant que soit l'essai de son courage,
Les vertus d'Empereur ne sont point de son âge:
Il est jeune, et chez eux c'est un si grand défaut
Que ce mot prononcé détruit tout ce qu'il vaut. 797-800

この点で、彼女の政治的炯眼は凡庸なレオンを遥かに抜きんでている。彼にはピュルケリが置かれた政治的状況を把握することができないのである。

Moi qui n'ai que l'amour qui lui parle pour moi. 652

また、ピュルケリがヒロイズムへの高揚と愛のどちらかを優先するかと言う点についても定かで

はなかった。

Plus ele m'assurait de son affection,
Plus je me faisais peur de son ambition.
Je ne savais des deux quelle était la plus forte, 636-638

Car enfin mon amour n'en veut qu'à sa personne, 689

結局は、彼は私的な愛にのみ関心を寄せ、公共的な義務を放棄したナダルの言う apolitique な人物であったということになる⁽⁴⁾。レオンの政治的未熟さは明白である。一方、ピュルケリは前にも述べたようにそこまで盲目ではない。脆弱な帝国に堅固な指導者を選ばなければならないという政治的課題を自覚し、自らの義務とし、そこに自らのヒロイズムをも賭けている。

Pour choisir une tête à ce grand corps qui tremble, 26

ところで、彼女は帝国の再興の為に、愛を躊躇なく断念し、愛における自己支配を貫くことでヒロイックな高みに昇り得たのだろうか。彼女は元来レオンが政治的に成熟した暁には、レオンを皇帝に、即ち彼との結婚を企図していたのである。しかし、弟テオドズⅡ世の早すぎた逝去が彼女の目論見を頓挫させた。

Mais ce malheureux prince est mort trop pour nous. 24

今、未熟で若いレオンを選ぶことはビザンツ帝国に政治的不安定を招きかねないことと、それはピュルケリ自身、自ら否定する官能に支配されていることを世に公表するにほかならないのだから、ピュルケリはもはや彼女の意思を通すことはできない。彼女は自らを支配することを世界に示すことで、世界の支配者として君臨できるのでありヒロイズムを打ち立てることができるのである。弟の死はピュルケリがヒロイズムを発揚する絶好の機会を与えたとも言える。

Et si de ce grand choix ma flamme est la maîtresse,
Je commence à régner par un trait de faiblesse. 785-86

Car ne nous flattons point, ma gloire inexorable
Me doit au plus illustre, et non au plus aimable, 947-54

とはいえ、彼女はレオンとの愛をヒロイズムの故に断念した訳では決してなかった。彼女は元老院がレオンを選定することに期待するところがあったのである。

Il fallait qu'on le vît des yeux dont je le voi,
Que de tout son mérite on convînt avec moi,
Et que par une estime éclatante et publique
On mît l'amour d'accord avec la politique. 767-770
J'aurais déjà rempli l'espoir d'un si beau feu,
Si le choix du sénat m'en est donné l'aveu.
J'aurais pris le parti dont il me faut défendre,
Et si jusqu'à Leon je n'ose plus descendre,
Il m'était glorieux, le voyant souverain,
De remonter au trône en lui donnant la main. 771-76

しかしながら、元老院は、ピュルケリの感情を知りつつもその様な政治的危険を冒そうとはしなかった。元老院は恐れ多くも后妃の配偶者を選ぶ訳にはいかないという礼譲を口実に選定の責任を逃れたのであった。自分の希望の実現を元老院の助力によって期待するピュルケリと、そのような危険を背負うことを回避しようとする元老院との間の微妙な駆け引きがあったのだが、元老院から一任を負わされたピュルケリにしてみれば、レオンとの愛を实らせるという一縷の望みは断たれた。このように、ピュルケリとレオンの愛の不首尾は、ピュルケリのヒロイズムによるというよりも、状況によって不承不受け入れられたものと言わねばならないだろう。愛と義務との葛藤に苦悩しつつも、愛の断念という辛苦に満ちた決断を下したヒーローの面影は見られない。オラースが何らの躊躇なく、遅滞なく自らに課されたヒロイックな運命を受け入れたのに比して、執拗なまでに *gloire inexorable* の保持に拘泥しながらも、*destin inexorable* を超越するヒロイックなエネルギーに欠け、ピュルケリのヒロイズムには逡巡、躊躇、自己統制の失敗が窺える。これらはヒロイズムの失墜を証して余りあるものと言えよう。実に、純粋なヒロイズムの時代は遠く過去のものとなってしまったのである。

§ 4 ヒロイズムの低落

ピュルケリは愛を公共的価値の前に犠牲にするというヒロイズムを前に逡巡し決断を回避したのだが、これはヒロイズムの価値観からすれば二義的な問題とも言い得る。コルネイユのヒーローにとっては、愛はほとんどの場合、英雄的な価値となり得ないものなのである。人間は孤立して生きることはいかなる場合でもできない。必ず共同体の中でその生を営まなければならない。そうした共同体の中でもっとも組織化されたものが国家である。コルネイユのヒロイズムは、この国家的な価値をもっとも優

先するのであって、それ故にコルネイユ劇は常に政治劇となり、ヒーロー達は運命の課した重い政治的課題に挑戦し克服しなければならない。そこに、彼等の本来の栄光と名誉があった。

ピュルケリにとって最大の課題は傾きつつある老大国、ビザンツ帝国を再興し強大にすることであるということはすでに述べた。また、彼女自身それを自覚している。

そのためには、celui du plus grand homme 927を皇帝として、つまりピュルケリの配偶者として選ぶ必要があり、それは元老院が彼女に期待しているところでもある。ところで、数々の候補者の中で、もっとも有力な人物としてアスパルがいる。アスパルはレオンの妹イレヌの愛人とされているが、彼女との結婚を先送りしている。

レオンを皇帝に選べないのは、彼の若年と数々のライバルがいて危険である為だが、そのライバルの中で最大の者がアスパルなのである。イレヌは兄レオンにその状況を的確に説明している。

Ainsi depuis deux ans vous voyez qu'il diffère,
Du reste à Pulchérie il prend grand soin de plaire,
Avec exactitude il suit toutes ses lois,
Et dans ce que sous lui vous avez eu d'emplois,
Votre tête aux périls à toute heure exposée
M'a pour vous et pour moi presque désabusée. 181 - 186

実際、ビザンツ帝国のうちにあってもっとも皇帝にふさわしいのは、政治力、軍事力からいって抜きんでいるアスパルである。仮にピュルケリが愛するレオンを皇帝にした場合、アスパルは反乱を起こす可能性さえあり、また元老院始め多くの将軍が彼に従う可能性がある。従って、ピュルケリにとってはアスパルの扱いがもっとも苦慮するところなのである。彼女が真に帝国の再建を願い、その強化を求めるならば、彼を皇帝に選定すべきであろう。そうすれば国家への最大の貢献になったはずである。それができなかったのは、この問題を純粹に政治的に取り扱うことができなかったためである。これは政治的問題であると同時に、ピュルケリにとって配偶者を選ぶという感情的問題も絡んでいた。次に、アスパルを選んだ場合、ピュルケリは政治的主導権を失ってしまうだろうという危惧がアスパルを避けざるを得なかった理由である。弟が在世中も実質的な権力を掌握していたピュルケリは、政治的に強力な配偶者を選ぶことで、それを譲渡する気は全くなかった。

彼女にはもっと政治力の弱い、しかし元老院始め、アスパルや多くの将軍が認める皇帝が必要だったのである。その事情を見抜いたアスパルは、その政治的慧眼を発揮し、とりあえずレオンに接近する。

Du sort de l'univers nous allons décider:
L'affaire vous regarde, et peut me regarder,
Et si tous mes amis ne s'unissent aux vôtres,

Nos partis divisés pourront céder à d'autres.
Agiſsons de concert, et ſans être jaloux,
En ce grand coup d'Etat, vous de moi, moi de vous,
Jurons-nous que des deux, qui que l'on puiſſe élire
Fera de ſon ami ſon collègue à l'Empire, 255 – 262

アスパルの同盟の申し出に対するレオンの返事はつれないものであった。

Et l'amitié voudrait vous en donner ma foi,
Mais c'est à la Princesse à diſpoſer de moi:
Je ne puis que par elle, et n'ose rien ſans elle. 271 – 273

これはレオンの政治的駆け引きと言うよりも、むしろピュルケリの愛人としての返答と取った方がいいだろうし、極言すればレオンの政治的無能を見せるものでしかない。アスパル自身もそのような理解をし、レオンを見放し、全く思いもかけなかった人物マルシャンに近づく。ここにもアスパルの変わり身の早さが見られる。

Il eſt, il eſt encor des noms plus ſignalés:
J'en ſais qui leur plairaient, et ſ'il vous faut plus dire,
Avouez-en mon zèle, et je vous fais élire. 567 – 70

マルシャンは老耄の臣下として登場する。

J'aimais quand j'étais jeune, et ne déplaiſais guère:
Quelquefois de ſoi-meme on cherchait à me plaire,
Je pouvais aſpirer au cœur le mieux placé,
Mais, hélas! j'étais jeune, et ce temps eſt paſſé.
Le ſouvenir en tue, et l'on ne l'enviſage
Qu'avec, ſ'il faut dire, une eſpèce de rage, 441 – 446

しかしながら、彼は密かにピュルケリに想いを寄せていたのであり、

Et quand je ne pensais qu'à remplir mon devoir,
Je devenais amant ſans m'en apercevoir.
Mon âme, de ce feu nonchalamment ſaiſie,

Ne l'a point reconnu que par ma jalousie:
Tout ce qui l'approchait voulait me l'enlever,
Tout ce qui lui parlait cherchait à m'en priver. 459-64

この実現し得ない恋に焦がれながらも、ただピュルケリとレオンの結婚を見ることなく死ぬことができることを望んでいたのである。そのために、彼はピュルケリにレオンが帝国の支配者としても支柱としても不十分であり、できるだけ二人の結婚を延期するように吹き込んでいた。

Je fis plus, de Léon j'appuyai l'espérance,
La Princesse l'aima, j'en eus la confiance,
Et la dissuadai de se donner à lui
Qu'il ne fit de l'Empire ou le maître ou l'appui.
Ainsi, pour éviter un hymen si funeste,
Sans rendre heureux Léon, je détruisais le reste,
Et mettant un long terme au succès de l'amour,
J'espérais de mourir avant ce triste jour. 477-484

アスパルがこのようなマルシャンの秘められた恋を知っていたかどうかは疑問だが、レオンが皇帝に就くよりははるかに安全であったことは言うまでもない。アスパルはマルシャンに若年のレオンでは、將軍達が指揮に従わないだろうと示唆し、マルシャンのかつぎ出しを画策する。

Il est jeune, et l'on craint son peu d'expérience.
Considérez, Seigneur, combien c'est hasarder:
Qui n'a fait qu'obéir saura mal commander,
On n'a point vu sous lui d'armée ou de province 546-549

Cependant nous voyons six généraux d'armée
Dont au commandement l'âme est accoutumée:
Voudront-ils recevoir un ordre souverain
De qui l'a jusqu'ici toujours pris de leur main?
Seigneur, il est bien dur de se voir sous un maître
Dont on le fut toujours, et dont on devrait l'être. 557-562

アスパルにすれば、自分が選ばれる可能性がない以上、これは次善の策であるが、また、マルシャンの老耄、無能力を計算して自分の政治的地位に何らの危険性がないことを承知してのことでも

あった。万が一にも、ピュルケリがレオンを選ぶという強行手段に訴えたならば、その時の政治的リスクはアスパルにも帝国にも計り知れない。それを回避する絶好の手段でもあったのである。

アスパルの提案に対するマルシャンの返答は礼儀と作法に即した表面的な拒絶であった。

Moi, Seigneur, dans un âge où la tombe m'attend!
Un maître pour deux jours n'est pas ce qu'on prétend.
Je sais le poids d'un sceptre, et connais trop mes forces
Pour être encor sensible à ces vaines amorces.
Les ans, qui m'ont usé l'esprit comme le corps,
Abattraient tous les deux sous les moindres efforts, 571-76

ここで、初めて政治的解決の糸口はつけられた。それが帝国の最高指導者のピュルケリの主導によるものでなく、政治的な公式な機関である元老院の主導によるのでもなく、老練な将軍アスパルによって示唆されたことはビザンツ帝国においてもはやヒロイズムが機能を喪失していると言わねばならない。アスパルはある意味で、ヒーローと言える資格を有している。少なくとも、ビザンツ帝国において、彼は最大の武勇の持ち主として認められており、政治的熟練においてもレオンなどをはるかに抜きこんでいる。しかし、かれが真のヒーローとして認められないのは、余りにも政治的知恵に富すぎているからである。アスパルの婚約者イレヌスは、彼の愛について誤ることのない洞察を示している。

Il m'aime en apparence, en effet il m'amuse, 173
Il veut voir quel succès aura son grand dessein,
Pour ne point m'épouser qu'en sœur de souverain.
Ainsi depuis deux ans vous voyez qu'il diffère. 179-81

彼の grand dessein とは、言うまでもなくの政治的地位の上昇を獲得することであり、レオンが皇帝になるかどうか不確定な時点で、その妹と結婚する気にはなれないのである。それは

.....ambitieux qu'il(Aspar)est, 191

という評にも明確に表現されている。そして、アスパルは、マルシャンに皇帝への就位をほのめかした後、拔かりなくマルシャンへの助力と自らの政治的地位の確保を約束するよう求めるのである。

[Aspar] Pour éviter les maux qu'on ne pourrait attendre,

Vous pourriez partager vos soins avec un gendre,
L'installer dans le trône, et le nommer César.

[Martian] Il faudrait que ce gendre eut les vertus d'Aspar,
Mais vous aimez ailleurs, et ce serait un crime
Que de rendre infidèle un cœur si magnanime.

[Aspar] Quand leur amour irait jusqu'à l'idolâtrie,
Ils le sacrifieraient au bien de la patrie. 581-90

いささか長い引用になったが、礼節と謙譲に満ちた言葉のやり取りの裏面には、激しい政治的取引が行われていることを見逃してはならない。アスパルのねらいは、マルシャンを帝位につけて、その娘を娶ることで、Césarの位を得、ピュルケリやレオンへから得られない地位を獲得しようとするのであった。その企図を達成するには、操縦しやすいマルシャンは絶好の人物だったのである。マルシャンは自分の老耄から皇帝の職務に耐えられないとアスパルの提案を婉曲に斥けたのだが、ここでもアスパルが彼の娘を所望したのに対し、アスパルはすでにイレヌを愛しているのでその様なことはできないと巧妙に逃げるが、宮廷流儀の言い回しの裏にマルシャンの権力への牽引が隠れていないとは断言できないだろう。ましてや、アスパルの提案はマルシャンの心の底深くに潜む恋に希望を持たせるものでもあったのである。「国家の利益の為には」590敢えて愛を犠牲にするのも厭わないというアスパルの返答にしても、外見こそコルネイユ的ヒロイズムの装いを凝らしているが、誰も字義通りには信じることができないだろう。アスパルは恋愛においても、政治においても変わり身の早い、権謀に生きるリアリストであり、その故に真のヒーローと呼ぶにはふさわしくないのである⁽⁵⁾。

ピュルケリは元老院がレオンを推すことに一縷の望みを託し、それがかなわないと、自らが単独で支配することを元老院が認めることを希望したりもする。

Je voudrais que le ciel inspirât au sénat
De me laisser moi seule à gouverner l'Etat, 1447-48

しかし、レオンの最大の政敵アスパルとの会見から、自らの cœur による選択の危険性を明白に察知する。

Mais il n'a pas laissé de me faire juger
Du choix que fait mon cœur quel sera le danger. 747-48

こうして、ピュルケリが自らの感情を断念できず、何のヒロイックな決断をできないで解決を延引しているうちに、解決は思わぬところからやって来る。

それはおずおずとした求婚者の告白で始まる。ただし、このような恋の告白をする勇気をマルシャンに与えたのはアスパルの示唆であった。

C'est donc à moi, Madame, à confesser mon crime. 1493

En vain, Madame, en vain je m'en suis défendu,
En vain j'ai su me taire après m'être rendu:
On m'a forcé d'aimer, on me force à le dire.
Depuis plus de dix ans je languis, je soupire,
Sans que de tout l'excès d'un si long déplaisir
Vous ayez pu surprendre une larme, un soupir: 1504-08

.....

Adieu: vivez heureuse et si tant de jaloux.... 1515

[Pulchérie] Ne partez pas, Seigneur, je les tromperai tous,
Et puisque de ce choix aucun ne me dispense,
Il est fait, et de tel à qui pas un ne pense.

[Martian] Quel qu'il soit, il sera l'arrêt de mon trépas,
Madame,

[Pulchérie] Encore un coup, ne vous éloignez pas.
Seigneur, jusques ici vous m'avez bien servie,
Vos lumières ont fait tout l'éclat de ma vie,
La vôtre s'est usée à me favoriser:
Il faut encor plus faire, il faut...

[Martian] Quoi?

[Pulchérie] M'épouser.

[Martian] Moi, Madame?

[Pulchérie] Oui, Seigneur, c'est le plus grand service
Que vos soins puissent rendre à votre impératrice. 1516-26

実は、マルシャンが多くの候補者の一人であり得たということは、すでにピュルケリの脳裏に浮かんでいた。

S'il était dans un âge à prétendre ma foi,
Comme il serait de tous le plus digne de moi,
Ce qu'il donne à penser aurait quelque apparence:

ただ、レオンが若すぎて政治的に未熟であったのに対し、マルシャンは老齢にすぎたが政治的経験は豊富であった。すでにピュルケリの下で長年仕えていたのである。レオンに比べて、マルシャンには多くの利点があった。その無力と野心のなさ、政治的経験の豊富が人々に安心感を与え警戒心を解いたのである。ピュルケリはその利点を十分に利用した。先の引用が示したように、il faut m'épouser という語句には命令調の響きが窺えるように、彼女自身にとってもマルシャンは操りやすい案山子であり、自らの権力にいささかの脅威ももたらさない人物であった。

Mais puisqu'on m'a sans lui(Leon) nommée impératrice,
Je dois à ce haut rang d'assez nobles projets
Pour n'admettre en mon lit aucun de mes sujets.
Je ne veux plus d'époux, mais il m'en faut une ombre,
Qui des Césars pour moi puisse grossir le nombre,
Un mari qui consent d'être au-dessus des Rois,
Me donne ses clartés, et dispense mes lois,
Qui n'étant en effet que mon premier ministre, 1542-49

配偶者ではなく、配偶者の影法師がいれば、ピュルケリは自ら抱えた政治的難題を解決できるわけである。こうしてみれば、ピュルケリはマルシャンと言う切り札を使って縛れた糸をほぐした巧妙な政略家のように見える。元老院も、レオンも、アスパル⁶⁾も抗しがたい人物を皇帝に選ぶことで、帝国の政治的分裂を回避し、後継には彼女が愛するレオンを立てることに成功し、かつ、実質的には臣下にすぎない老弱したマルシャンの故に、自らの権力を無傷に守り、また n'admettre en mon lit aucun de mes sujets という彼女の意思も通せたのである。

ピュルケリがマルシャンを選んだことを知って、レオンは憤激し彼女をなじるが、もともと彼女はレオンが選ばれなくとも、誰のものにもならないこと、自分の cœur はレオンのものであることを誓っていた。

J'aime, et si ce grand choix ne peut tomber sur vous,
Aucun autre du moins, quelque ordre qu'on m'en donne,
Ne se verra jamais maître de ma personne: 1020-22
Je le jure en vos mains, et j'y laisse mon cœur, 1023

従って、レオンはピュルケリの裏切りを責めたのだが、

Je fais vœu de mourir telle que je suis née,
Que Martian reçoit et ma main et ma foi,
Pour me conserver toute, et tout l'Empire à moi,
Et que tout le pouvoir que cette foi lui donne
Ne le fera jamais maître de ma personne. 1670-74

ピュルケリは自らの愛の潔白と貞節にいささかの傷もつかないことを主張できたのである。史実においては、ピュルケリはその生涯と処女を神に捧げた偉大なプリンセスとして、ルネサンスの人文学者の賞賛をほしいままにしたのだが⁷⁾、コルネイユ劇においては、宗教的側面は全くと言っていいほど触れられず、ピュルケリが処女を守ったのは、あくまでも l'amour platonique に殉じたからとされている。

ここに mariage blanc というテーマが浮かび上がるのだが、前述したように、ピュルケリの官能や肉欲に裏打ちされた愛を否定する恋愛観からすれば、当然愛と性との分離は予想されることであった。彼女は愛するレオンとの結婚を念頭において次のように述べている。

Je crains de n'avoir plus une amour si parfaite,
Et que si de Leon on me fait un époux,
Un bien si désiré ne me soit plus si doux.
Je ne sais si le rang m'aurait fait changer d'âme,
Mais je tremble à penser que je serais sa femme,
Et qu'on n'épouse point l'amant le plus cheri,
Qu'on ne se fasse un maître aussitôt qu'un mari. 1438-44

「完全な愛」と結婚とは両立しがたいことを承知し、レオンの妻となることに不安を覚えているのである。彼女が求める愛とは、肉欲の影を留めない記憶の中にしまい込まれて結晶化されたプラトニックな愛なのである。

L'âme qui l'a sentie en est toujours charmée,
Et même en n'aimant plus, il est doux d'être aimée. 1169-70

コルネイユの研究者には、愛という見境もなく有頂天になる人が多く、例えばステグマンは「愛は敗北したようでいて、実は勝利を得た。それは結婚との結合を失って一層純化されたからである」⁸⁾と述べ、スィートサは「女帝としてマルシャンを選び、恋する人間としては、国家の要求するところに従い夫の影であることを求めた。こうして、ピュルケリは国家の義務、愛の貞節、そして彼女の深い欲求である自律した自我を勝ち得た」⁹⁾と余りにも楽観的、というよりおめでたい評を下し

ている。ドルトまでも、「ピュルケリの愛は救われた。愛の成就を永久に断念することによって、この世の墮落から愛を逃れせしめたからである」と評する⁽¹⁰⁾。

性と分離した脱肉体化したプラトニック・ラブこそ「完全な愛」だと主張するならば、それは見解の問題であるが、少なくとも、コルネイユの劇的世界における重心をなすヒロイズムの見地からするならば、プラトニック・ラブは理想の、完全な愛なぞではあり得ない。伝統的なコルネイユ観では、「義務と愛の葛藤」において愛は抑制され義務が勝利を収める。そこに栄光を認めるものもいれば、人間性の抑圧を感じる人もいた。しかし、愛はコルネイユ的世界で常に劣位に置かれ抑圧される弱い情念ではないことを、ナダルは示しそれまでの常識を逆転したのである⁽¹¹⁾。愛が単なる官能や感覚のものではなく、それ自体のモラルを有して政治的義務と対等の精神的価値を持つものとして、それらとの激烈な相克の中に投げ入れられ、一度は否認されるがより高度な価値として甦るときヒロイズムにまで高められるのである。そのようなヒロイックな愛がコルネイユ劇における理想の愛の在り方であり、官能はいったんは否認されるものの決して抑圧されるものではない。その様な例の一つがロドリグとシメヌの愛であった。ヒロイズムの観点からすれば、プラトニック・ラブやロマンチック・ラブ⁽¹²⁾など、ヒロイックな高揚への精神的エネルギーを失った人間が自己の無力感を合理化しようとする代償行為、あるいは無力な自我への自己憐憫にすぎないのである。今日の多くのコルネイユの批評家達が、こうした愛に高い価値を置き、コルネイユ的ヒロイズムの高みを理解できないでいるのは、我々が生きている時代がヒロイズムの世紀ではないからである。ヒロイズムという苛烈な運命に抗する精神的エネルギーの高揚よりも、センチメンタルな愛への傾斜の方が弱体な精神には理解しやすいのである。

ピュルケリの愛がそのようなヒロイズムから大きく逸れたものであることは言うまでもないだろう。彼女の愛は、愛からその官能性を剥奪し、この地上における実現の可能性を諦念する代償に、あの世、アイデアの世界において完全な理想の愛の実現を期そうとするプラトニック・ラブなのである。ドゥブロフスキは、ここにクレーブ公妃がヌムール公との結婚で自己支配 *maîtrise de soi* を喪失するのと同様の不安を見ているが⁽¹³⁾、それよりも、これは精神分析の所説に従えば、性器愛にまで発達しなかった愛であり、根底には性器愛への恐怖が潜んでいるのである。性的結合と *maîtrise de soi* が両立できないという理由はないように思えるからである。同時に性器愛にまで発達せず、肛門期に固着したことが彼女の権力への強い執着を説明することができよう。ヒロイックな愛への超越へのエネルギーの減退、ヒロイズムの退廃をピュルケリのプラトニック・ラブは証している。

マルシャンを配偶者・皇帝として選んだことは、政治的難題、感情的問題、及びピュルケリの自己実現の深い欲求を満たしたように見える。その意味で、彼女は老練な政略家であると言えるかもしれない。しかし、それは単なる弥縫策であり政治的妥協に過ぎないものであった。ヒロイズムのいささかの影も見えないと言ってよい。彼女の最大の課題は衰退しつつある老帝国の再建、再興にあったのである。そこに彼女の何にも代えがたい *gloire* がかかっていたはずである。だが彼女が取った行動は、無力の証明であった。マルシャンを選択したことは、その経路は違うと言え結局アスパルの選択と同じなのである。マルシャンには、政治的、軍事的無力に加えて、性的不能という暗示さ

え加えられている。

[une ombre qui]paraisse mon époux, et n'en ait que le nom.

Vous m'entendez,Seigneur, et c'est assez vous dire. 1552-1553

このような皇帝を戴いて、ビザンツ帝国は無力、無能、無気力の中にますます沈没してゆくのである⁽⁹⁾。ピュルケリに好意的に見れば、状況は余りにも悪すぎたと言える。彼女自身が単独で傾きつつある帝国を再建することは不可能であったし、具体的に登場した皇帝の候補者、レオン、アスパル、マルシャンのいずれを選んでも状況を好転することは困難であったかもしれない。だが、彼女が真にビザンツ帝国の維持と再興に身を投ずるとするならば、帝国の中でもっとも有力な將軍アスパルを選ぶべきであっただろう。それができなかったのは、愛するレオンを権力の後継に据えたいという感情を断ち切れなかったのと、アスパルの軍事・政治力の前に自らの権力を削減されることを嫌ったからである。アスパルがマルシャンのような木偶になり得ないことは明白である。一言で言えば、自己犠牲というヒロイズムの基本的振舞いを放棄したのであり、ピュルケリが何度も口にした gloire はその実質を失い言葉だけに終始してしまったのである。この劇の中でもっともヒロイズムの価値観に忠実であったのはピュルケリであった。彼女こそ、劇中最大のヒーローと言えるのであるが、そのヒロイズムはエネルギーを失い、前述したようにむしろ権力欲に変質したものであった。また、ヒロイズムが vivre à soi ないしは maîtrise de soi⁽¹⁰⁾ を根底の動機としている事は確かであるが、それは愛において他者に支配されることへの恐れに变じたり、運命が命じた義務を前にしての自己犠牲、あるいは自己超越を躊躇させるものではないのである。ヒロイズムにおける自己実現とは、自己犠牲において成就するという逆説的なものだからである。彼女が果たしたかに見える、帝国の維持強化、愛を無傷で保つこと、自己実現のいずれもが実質的には失敗に終わった。こうしてオラースの目も眩むばかりのヒロイックな飛翔から、大きく時を経たことをピュルケリのヒロイズムの凋落に見ることができよう。『ピュルケリ』の次作であり、コルネイユの最後の作品となった『シュレナ』ではもはやヒロイズムの影さえ見ることができないことから、glorie に執心し、最悪の状況下で少なくともヒロイックな体面を保とうとしたピュルケリはコルネイユ劇の最後のヒーローであり、ヒロイズムの残照であったのである。

註

コルネイユからの引用は、ステグマン編集の全集版、*Corneille œuvres complètes* Seuil に依る。

(1) Nelson R.J. *Corneille His Heroes and Their Worlds* University of Pennsylvania Press p.246

(2) Je suis impératrice, et j'étais Pulcherie, この句はⅢ幕1場に2回も出て来る。754、794

- (3) Nadal O. *Le sentiment de l'amour dans l'œuvre de Pierre Corneille* p.254 Gallimard
- (4) Nadal *ibid.* p.256
- (5) ステグマンはアスパルについて、un pur machiavelique という酷評を下しているが、machiaveliqueという言葉は、コルネイユ世界では anti-hérosを意味するもっとも péjoratifな語である。ここまで酷評する必要はないだろう。彼もレオン、マルシャンと並ぶヒーローの一人なのであり、この作品では、レオンは情熱の奔流に流される恋人、アスパルは術策に富んだ政略家、マルシャンは無力な老人にまで堕ちてしまったのである。cf. Stegmann A. *L'héroïsme cornélien tome II* p.644 Armand Colin
- (6) アスパルはピュルケリがマルシャンを選らんだのを聞いて、Tout vieil et tout cassé qu'il est ! 1586 と言っている。
- (7) コルネイユ自身 au lecteur でピュルケリが処女を神に捧げたことを触れている。また、ステグマンも全集版の注釈3)でこの点に触れている。p.779
- (8) Stegmann A. *L'œuvre de Corneille* Hachette p.103
- (9) Sweetser M.O. *La dramaturgie de Corneille* Droz 1977 p.237
- (10) Dort B. *Corneille dramaturge* L'Arche P.143
- (11) cf. Nadal *op.cit.* p.161-165 ナダルは愛は単なる快樂や欲望に過ぎないものではなく、栄光や名誉の観念と一体化した valeur となり得ることを強調している。
- (12) シュレナとユリディスの恋がロマンチック・ラブの代表的例である。
- (13) Doubrovsky S. *Corneille et la dialectique du héros* Gallimard p.422-423
- (14) 史実を辿れば、ピュルケリの没後、僅かの期間単独で支配したマルシャンの治世にはアッチラの率いるフン族がマケドニアを劫掠しコンスタンチノブルに迫るに至ったし、マルシャンの後を継承したレオンは、ピュルケリにとってこの世における唯一の希望であったはずだが、その晩年東ゴート族 ostrogoths の跳梁を見るといのように、ビザンツ帝国は蕃族の蚕食に任されるのである。
- (15) ドゥブロフスキがヘーゲルの「主人と奴隷の弁証法」を援用して、ヒロイズムの形而上学的解釈を試みたが、そこではヒロイズムの深い欲求が maîtrise にあることが語られている。cf. Doubrovsky *op.cit.* この議論の要約は拙論『オラースとカミーユ』エイコスVI 1990に述べているので参照されたい。